

今年度の水害対応

京都府では、平成24～26年の3年連続で大規模な水害を受けてきた。

- 平成24年 京都府南部豪雨（8/13～14, 17～18）
- 平成25年 台風第18号（9/15～16）
- 平成26年 8月豪雨（8/15～17）

- 全世界で、異常気象による災害が多数発生している状況
- 世界的には、近年では、2014年（平成26年）夏～2016年（平成28年）春にエルニーニョ現象が発生
※エルニーニョ現象とは、南米ペルー沖の海面水温が上昇し、台風やハリケーンが起りやすくなる現象のこと。
- 日本では、1時間降雨量50mm以上の年間観測回数等が増加傾向にあり、水害が発生しやすい状況

1 洪水対策

① ハード対策

▶平成24年京都府南部豪雨を受けて（H24～）

- 天井川の切り下げによる抜本的な施設更新や護岸・河床構造物などの補修
 - ・弥陀次郎川 →天井川の切下げ区間完了
 - ・青谷川ほか19河川 →整備中
- } (H29までの予算 約35億円)
- 床上浸水解消に向けた河川改修
 - ・古川（床上浸水対策特別緊急事業）（H29までの予算 約35億円）
→用地買収約9割完了 護岸工事中

▶平成25年台風第18号を受けて

○国直轄河川の対策（H25～）

河川整備計画の治水対策を大幅に前倒し

- ・由良川（緊急治水対策事業）
概ね10年で輪中堤や堤防等を整備、特に被害が甚大な箇所は概ね5年で整備（H26～H35約430億円）
→輪中堤、住宅嵩上実施中
下流部15地先の住宅嵩上げ約320戸中56戸完了（H29.3末時点）
中流部5地先について、私市地区で築堤、水門工事を推進、戸田地区・観音寺地区で築堤を推進（H29.3末時点）
- ・桂川（緊急治水対策事業）
概ね5年で河道掘削や堆積土砂の撤去等を実施（H26～H31 約170億円）
→大下津地区の引堤工事、久我地区の河道掘削工事が進められるとともに、これまでに嵐山地区の6号井堰と堆積土砂の撤去を完了

○府管理河川の対策（H25～）

- ・由良川改修の進捗と合わせた整備推進（H29までの予算 約18億円）
 - ・相長川、大谷川ほか4河川 →整備中
 - ・桂川上流域の整備促進
 - ・桂川 →保津工区の高水敷掘削完了、護岸工事
 - ・園部川 →横田工区完了
 - ・本梅川 →災害復旧工事完了
- } (H29までの予算 約11億円)

▶平成26年8月豪雨を受けて

○由良川流域（福知山市域）における総合的な治水対策（H27～H31 全体約200億円）

- 国・市とともに福知山市街地において、内水対策を含めた総合的な治水対策に着手（府内初）
- ・弘法川・法川（H29までの予算 約47億円）
→H28.6から弘法川の河道改修工事に着手

② ソフト対策

◇情報提供の充実

▶平成24年京都府南部豪雨を受けて（H24～）

- ・天井川、浸水被害発生河川に水位計、雨量計、河川防災カメラを増設
- ・天井川、市街地中心部を流れる河川を水防警報河川、水位周知河川に追加指定

▶平成25年台風18号を受けて（H25～）

・鴨川に水位計を増設

・水位周知河川に指定

曽我谷川、犬飼川、千々川（亀岡市）、田原川、棚野川（南丹市）、高屋川（京丹波町）

・水防警報河川に指定；防賀川（下流）（八幡市）、須知川（京丹波町）

・水防警報河川の河川改修工事に伴う水位変更；弘法川（福知山市）

	水位計	雨量計	カメラ	水防警報河川	水位周知河川
H24.8	73基	102基	53基	37河川	20河川
現在	110基	108基	70基	64河川	36河川

▶近年の豪雨被害を受けて

・すべての府管理河川の浸水想定区域図の作成・公表（H27～）

→府管理の377河川のうち約90河川で作成着手（H29.3末時点）

・洪水予報河川、水位周知河川の浸水に関する詳細情報（※）の検討（H27～）

（※破堤想定地点ごとの時間経過による浸水範囲・浸水深など）

・小河川の洪水に関する雨量による避難判断基準の検討（H27～）

・洪水予報河川の予測精度の向上

2 土砂災害対策

◇情報提供の充実

○土砂災害警戒区域の指定推進等（H26～）

・指定予定の全ての箇所の基礎調査結果（約17,000箇所）をH27に公表済み。

→そのうち約16,000箇所の区域指定が完了（H29.3末時点）

○土砂災害警戒区域のGIS地図情報システムでの公開（H27～）

○土砂災害警戒情報の精度向上（H27～）

・危険度表示の細分化（5Kmメッシュ→1kmメッシュに細分化済）、地域単位ごとの雨量情報、危険度基準線の見直しなど

3 治山対策

○災害関連緊急治山事業

○復旧治山事業（H24～）

○災害関連緊急単独治山事業

○保安林等適正整備事業（H27～）

4 内水（雨水貯留）対策

○いろは呑龍トンネルの整備

・桂川右岸流域における雨水を貯留

→雨水南幹線を整備中（H32暫定供用開始、H35施設完成を目指す）

○マイクロ呑龍1万基構想の推進（H27～）

・個人の雨水貯留施設の設置を支援

○内水ハザード情報の公表（H27～）

5 府民との災害情報の共有等

○京都府防災情報府民共有システムの運用開始（H26～）

・緊急速報メール発信、防災・防犯情報メール配信、災害情報収集共有システム（WebEOC）等

○マルチハザード情報提供システムの整備、活用促進（H27～）

・マルチハザード情報活動指導員の養成、各地域で講座を開催（H28～）

○「災害からの安全な京都づくり条例」の制定（H28～）

・①各種の災害危険情報を府、府民等が共有 ②災害に強いまちづくりを推進 ③地域防災力の向上により、府民が安全に暮らすことができる京都府を実現

▶被害を軽減するためのハード対策の推進

▶最悪の事態を想定し、府民の命を守るためのソフト対策の推進

⇒災害情報の充実、精度向上、共有化により、行政、防災機関が連携を密にして対応